平成24年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年7月12日

上場会社名　株式会社 マルマエ　　上場取引所　東
コード番号　6264　URL　http://www.marumae.com/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 前田　俊一
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長　(氏名) 藤山　敏久　TEL 0996-64-2900

四半期報告書提出予定日　平成24年7月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　(機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年8月期第3四半期の業績(平成23年9月1日～平成24年5月31日)

(1) 経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年8月期第3四半期	862	△8.8	56	―	32	―	△18	―
23年8月期第3四半期	946	43.1	△19	―	△51	―	△208	―

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年8月期第3四半期	△1,033.14	―
23年8月期第3四半期	△11,254.41	―

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年8月期第3四半期	1,833	56	3.1
23年8月期	2,245	74	3.3

(参考) 自己資本　24年8月期第3四半期　56百万円　23年8月期　74百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年8月期	―	0.00	―	0.00	0.00
24年8月期	―	0.00	―		
24年8月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年 8月期の業績予想(平成23年 9月 1日～平成24年 8月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100	△13.2	60	―	20	―	△20	―	△1,146.39

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年8月期3Q	18,540 株	23年8月期	18,540 株
② 期末自己株式数	24年8月期3Q	1,094 株	23年8月期	1,094 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年8月期3Q	17,446 株	23年8月期3Q	18,540 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると断定する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料2ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 2
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 2
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 2
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 2
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 2
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 3
４．四半期財務諸表 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
第３四半期累計期間 …… 6
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 7
（４）セグメント情報等 …… 7
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 7

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する定性的情報

当第３四半期累計期間におけるわが国経済は、依然として厳しい状況にあるなかで、生産、輸出及び設備投資は持ち直しの動きがみられ、企業収益は減少してきたものの、下げ止まりの兆しもみられました。ただし、欧州政府債務危機を巡る不確実性やそれに伴う海外景気の下振れ、国内においては電力供給の制約やデフレの影響等により、依然として先行き不透明な状況にあります。

当社の主な販売分野であるＦＰＤ業界におきましては、テレビ向けの液晶パネルの需給が悪化していることで関連する大型液晶パネルの設備投資が停滞し、中小型液晶タッチパネルや有機ＥＬディスプレイ製造装置の設備投資も一時的に停滞しております。半導体業界におきましても、タブレット型パソコンやスマートフォン等による需要拡大局面から転じＦＰＤ分野と同様に停滞局面に入りました。太陽電池業界におきましては、日本国内の家庭用の結晶系太陽電池の需要は好調でありましたが、中国の新興メーカーの台頭などアジア地域を中心とした生産が増加している事により需給が悪化し急激な価格低下が続いております。ただし、太陽電池の需要につきましては、再生可能エネルギーに関する政府方針にも関連し、家庭用のみならず大規模発電所用途も中長期的に再成長していく可能性が高まっております。

このような経済状況のもとで、当社は、タブレット型パソコンやスマートフォン向けを中心としたＦＰＤ分野・半導体分野で新規顧客への販路拡大や従来顧客への深耕化を行い、その他分野においては原子力関連や通信関連の受注安定化に注力いたしましたが、設備投資に対する動きは鈍く、売上・受注ともに厳しい状況となりました。また、損益面では引き続き固定費削減を推進し、生産面では事業再生計画の施策効果により生産性は大幅に改善いたしました。なお、経営改善施策の一環として熊本事業所売却に伴い営業外費用として休止固定資産の減価償却費を９百万円計上し、特別損失として固定資産売却損を35百万円とその他の事業構造改善費用として16百万円計上しました。

この結果、当第３四半期累計期間の業績は、売上高862百万円（前年同期比8.8％減）、営業利益56百万円（前年同期の営業損失は19百万円）、経常利益32百万円（前年同期の経常損失は51百万円）、四半期純損失18百万円（前年同期の四半期純損失は208百万円）となりました。

なお、平成23年８月31日付で装置組立事業を廃止したため、精密切削加工事業のみの単一セグメントとなっております。

（２）財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

前事業年度に比べ、412百万円減少し1,833百万円となりました。主な内容は、現金及び預金が284百万円、電子記録債権が91百円増加、受取手形及び売掛金が285百万円、たな卸資産が16百万円、有形固定資産が477百万円、その他流動資産が13百万円減少したこと等によるものであります。

（負債）

前事業年度に比べ、394百万円減少し1,776百万円となりました。主な内容は、買掛金が12百万円、１年内返済予定の長期借入金が６百万円、その他流動負債が37百万円、長期借入金が328百万円、その他固定負債が４百万円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

前事業年度に比べ、18百万円減少し56百万円となりました。主な内容は、四半期純損失の計上により利益剰余金が18百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は前事業年度末の3.3％から3.1％となりました。

（３）業績予想に関する定性的情報

通期業績予想につきましては、第３四半期累計期間は概ね想定通りの推移であり、第４四半期は、ＦＰＤ分野における受注が停滞傾向であるなど厳しい事業環境が続くものと予想しております。以上により、通期の業績予想につきましては、平成24年４月３日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、当第３四半期累計期間において、営業利益56百万円を計上しておりますが、固定資産売却損や事業構造改善費用等により四半期純損失18百万円を計上しており、前事業年度においては、営業利益５百万円を計上しながらも当期純損失389百万円を計上している状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は前事業年度より実施しております、事業再生ＡＤＲ手続の事業再生計画における金融支援策や熊本事業所閉鎖及び人員整理等の施策効果、当事業年度に実施しております生産構造改革により、収益状況は順調に推移し、収益性の向上による経営基盤の改善が継続的に見込める状況にあります。また、資金面においても、当該事業再生計画に基づく弁済方法の変更により、安定した事業運営を進めるための十分な運転資金を有している状況であります。

以上により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在しないと判断しております。

なお、文中の将来に関する事項は、当第３四半期会計期間の末日において当社が判断したものであります。

４．四半期財務諸表

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成23年８月31日）	当第３四半期会計期間 （平成24年５月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	144,497	429,115
受取手形及び売掛金	452,717	166,855
電子記録債権	－	91,610
商品及び製品	2,080	4,663
仕掛品	44,035	25,040
原材料及び貯蔵品	551	712
その他	19,222	5,275
貸倒引当金	△943	△516
流動資産合計	662,161	722,757
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	563,454	319,946
構築物（純額）	14,685	9,501
機械及び装置（純額）	416,533	333,053
車両運搬具（純額）	3,156	6,106
工具、器具及び備品（純額）	3,258	2,534
土地	427,524	289,783
リース資産（純額）	10,400	6,800
建設仮勘定	115,535	109,600
有形固定資産合計	1,554,549	1,077,326
無形固定資産	5,040	2,920
投資その他の資産	23,605	30,155
固定資産合計	1,583,195	1,110,402
資産合計	2,245,357	1,833,159
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,266	21,248
1年内返済予定の長期借入金	6,610	－
未払法人税等	4,244	2,229
受注損失引当金	6,000	2,900
その他	102,020	64,830
流動負債合計	152,140	91,208
固定負債		
長期借入金	2,008,945	1,680,345
資産除去債務	1,570	1,580
その他	8,131	3,479
固定負債合計	2,018,646	1,685,405
負債合計	2,170,787	1,776,613

（単位：千円）

	前事業年度 （平成23年８月31日）	当第３四半期会計期間 （平成24年５月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	133,000	133,000
資本剰余金	123,000	123,000
利益剰余金	△181,430	△199,454
株主資本合計	74,569	56,545
純資産合計	74,569	56,545
負債純資産合計	2,245,357	1,833,159

（２）四半期損益計算書
（第３四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　平成22年９月１日 至　平成23年５月31日）	当第３四半期累計期間 （自　平成23年９月１日 至　平成24年５月31日）
売上高	946,087	862,464
売上原価	831,035	666,120
売上総利益	115,052	196,343
販売費及び一般管理費	134,525	139,926
営業利益又は営業損失（△）	△19,473	56,416
営業外収益		
受取利息	54	32
為替差益	－	2,983
その他	3,580	1,130
営業外収益合計	3,634	4,146
営業外費用		
支払利息	27,677	16,849
為替差損	1,912	－
減価償却費	5,276	9,960
その他	1,238	915
営業外費用合計	36,104	27,725
経常利益又は経常損失（△）	△51,942	32,837
特別利益		
固定資産売却益	70,828	3,532
特別利益合計	70,828	3,532
特別損失		
固定資産売却損	－	35,100
固定資産除却損	862	0
減損損失	141,637	－
事業構造改善費用	80,882	16,354
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	978	－
特別損失合計	224,360	51,454
税引前四半期純損失（△）	△205,473	△15,085
法人税、住民税及び事業税	3,182	2,938
法人税等合計	3,182	2,938
四半期純損失（△）	△208,656	△18,024

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）セグメント情報等
（セグメント情報）
Ⅰ　前第３四半期累計期間（自　平成22年９月１日　至　平成23年５月31日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期損益計算書計上額（注２）
	精密切削加工事業	装置組立事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	941,143	4,944	946,087	－	946,087
セグメント間の内部売上高又は振替高	86	－	86	△86	－
計	941,230	4,944	946,174	△86	946,087
セグメント利益又は損失(△)	13,955	△33,428	△19,473	－	△19,473

（注）１．調整額はセグメント間取引消去であります。
２．セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）
該当事項はありません。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
（固定資産に係る重要な減損損失）
「精密切削加工事業」セグメントにおいて124,796千円の減損損失、「装置組立事業」セグメントにおいて16,841千円の減損損失を計上しております。
なお当該減損損失は、資産の収益性の低下によるものです。

Ⅱ　当第３四半期累計期間（自　平成23年９月１日　至　平成24年５月31日）
当社は、精密切削加工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。
なお、平成23年８月31日付で装置組立事業を廃止したため、精密切削加工事業のみの単一セグメントとなっております。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。